



受け継がれる伝統 守り続ける郷土芸能

市指定文化財 古戸里神楽 (平成20年7月31日指定)

湖北駅と新木駅の間、その北側に位置する古戸地区。ここには、約300年前の江戸時代から、台本と口伝で受け継がれてきた民俗芸能がある。

古戸独特の表現が見られる神楽舞と、台詞付きの面芝居。これらは毎年7月23日の古戸稲荷神社の祭礼で、古戸はやし連中によって奉納される。面芝居は他に伝承されているところはごくわずかで、無形民俗文化財として貴重な価値を備えている。

郷土芸能祭では、受け継がれてきた伝統を余すことなく披露し、その魅力を広く市民に伝えている。また、この神楽が未来永劫守り続けられるよう、後進の育成にも力を入れている。



阿曾 亮一さん(古戸はやし連中代表 78歳)

昭和30年代、時代の流れから古戸稲荷神社の祭礼が行われなくなり、古戸里神楽の奉納も一時途絶えてしまった。古戸の誇りを取り戻そうと、昭和50年ごろ里神楽復興の一員として動き始め、昭和54年の市民会館落成式で完全復活した。次の世代に伝え残すことのないよう、しっかりと引き継いでいきたい。

大山 瑞穂さん(湖北小・湖北中学校卒業 19歳)

古戸で生まれ育った私にとって、里神楽は物心ついたときから憧れそのものだった。小学4年になると迷わず郷土芸能クラブに入り、古戸はやし連中の稽古にも参加し始めた。これから就職などで人生の岐路が訪れるが、古戸の歴史と伝統の担い手となるよう、同世代と力を合わせて守り続けていきたい。



我孫子で生まれた歴史と伝統、 私たちも受け継いでいます

我孫子第四小学校伝統芸能クラブ× あびこふるさと会

我孫子第四小学校伝統芸能クラブは平成10年に発足。あびこふるさと会の指導の下、4～6年生24人がお囃子の練習に取り組んでいる。

あびこふるさと会は、八坂神社の祭礼やあびこカップまつりなどのイベントに参加し、広く市民に親しまれている。また、古くから宿場町として栄えた我孫子に伝わる「五囃子」「獅子舞」「仁羽」「大杉囃子」を継承するため、後継者育成にも力を注いでいる。



湖北小学校郷土芸能クラブ×古戸はやし連中

湖北小学校郷土芸能クラブは平成5年に発足。古戸はやし連中の指導の下、太鼓の打ち方から基本練習に取り組んできた。本クラブが受け継がれていくよう、先輩から後輩へその技や演技を伝えている。

布佐小学校郷土芸能クラブ× 布佐中学校郷土芸能講座×ひよっこ睦

布佐小学校郷土芸能クラブは平成元年に発足。お祭りが盛んな布佐で、ひよっこ睦の指導の下、伝統ある布佐のお囃子を受け継いでいる。

布佐中学校郷土芸能講座は平成6年にクラブ活動として発足。平成24年からは総合的な学習単元「布佐タイム」として教育課程に組み込み、受け継がれてきた。

ひよっこ睦は神楽師四代目駒崎豊次先生に師事し、江戸祭り囃子と江戸里神楽の普及・振興に努めている。また、布佐の小・中学生にお囃子や神楽の楽しさを伝えている。

